

(1)趣旨

- 7泊8日のキャンプを通して、仲間と共に登山・自炊などの活動を最後までやり抜き、何事にも自信を持って取り組める力を育む。
- 全プログラムを通し、やり抜く力の他に自己と仲間との向き合い方に焦点をあて、人間関係について深める。

(2)手立て

- ①事業を「ファースト」「セカンド」「サード」「ファイナル」の4つのステージに分け、ステージごとにねらいを設定する。特に「セカンド」ステージの活動において、他者と協力する場面や自分たちがやらなくてはいけない場面をスタッフが増やし、参加者が「人の役に立つ、人から褒められる、感謝される」等の経験をより多くできるようにする。
- ②全日程を通し毎日、参加者が自分を見つめるふりかえりの場を設ける。
- ③一人ひとりが翌日に頑張る目標を考え、目的意識を持って活動に向かわせる。自己と仲間との向き合い方について考えを深める子供たちの様子をスタッフが観察し、考察する。
以上の3つを設定し、本事業を実施した。

(3)実施概要

①期 日

【事前キャンプ】令和3年7月10日(土)～7月11日(日)(1泊2日)

【本キャンプ】令和3年7月31日(土)～8月7日(土)(7泊8日)

②参加者

【対象】小学5年生～中学2年生 17名(男子9名、女子8名)

【人数】小学5年生:5名 小学6年生:7名 中学1年生:2名 中学2年生:3名

群馬県:14名 埼玉県:2名 茨城県:1名

班編成

・1班5～6名で3班に編制(異年齢集団) ・各班にボランティアスタッフ2名ずつ配置

③スタッフ

・国立赤城青少年交流の家職員5名 ・班付きボランティアスタッフ6名

・群馬県立妙義青少年自然の家職員1名(事前キャンプ)

登山時の服装

- 帽子 速乾性Tシャツ 長袖シャツ(日差しや風を遮る用途) 長ズボン
靴下(すねまでの長さが好ましい) 登山用の靴

登山に必要な持ち物

- 〈個人〉リュックサック(25～40L) 水筒(1L程度) ハンカチ・ティッシュ 雨具(合羽) 軍手
タオル 腕時計 虫除け 虫刺され薬 日焼け止め 弁当 行動食 地図
- 〈グループ〉水用ポリタンク(2L) 経口補水液(280mL) 熊鈴 コンパス 簡易トイレ ツェルト(簡易テント)
- 〈指導者〉ファーストエイド 無線 携帯電話 熊撃退スプレー 熱中症対策用品

(4)推進委員会の概要

事業をより推進するために、職員だけで企画するのではなく、県内外の様々な機関と連携し実施するために、今年度も「推進委員会」を設置した。

①委員の構成(推進委員4名)(五十音順)

國學院大學人間開発学部 准教授	青木康太郎
群馬県立妙義青少年自然の家 社会教育主事	青山 裕也
日本山岳会群馬支部長	根井 康雄
国立赤城青少年交流の家 所長	松村 純子

②委員会の日程と議事内容

●第1回推進委員会 5月28日(金).....

(推進委員の役割)

- ・青木委員には事業実施による子供の変容に関する調査。青山委員には群馬県立妙義青少年自然の家との連携とプログラム普及への助言。根井委員には、登山を行う上での行程、安全についての助言。松村委員には、事業総括、報告書作成への指導・助言。

(実施案検討)

- ・登山時のペース確保について、遅い子を先頭にし、ゆっくりと歩くことが大事であること。エスケープはもろんのこと捻挫等のスタッフのバックアップ体制、ピックアップ場所の確定をしておくようにとの助言があった。

(調査検討)

- ・スタッフミーティングにおいて、単なる報告ではなく、そのときどうしたか、何を思ったかを聞き、対話をするのが大事であること。2次案内で参加者に聞き取りを行う保護者が期待すること、何を頑張りたいか等の部分をボランティアにも伝えと良い。

●第2回推進委員会 12月23日(木).....

(事業報告)

- ・報告書、映像でのキャンプのふりかえり。新型コロナウイルス感染症対策について確認。

(アンケートの分析)

- ・【国立赤城】ふりかえりシートで、「挑戦」の項目が高い数値を示した。抽出児童の行動変容。
- ・【青木委員】「自己主張・自己決定」と「根気」の項目に有意な教育効果や効果量を得ることができた。「自己注目体験」「挑戦・達成体験」「人の役に立っていると感じたこと」については、前回より減少している。

(報告書の構成案)

- ・新型コロナウイルス感染症対策についての記述や画像を使用すること。
- ・子供が実際に踏破した距離が分かるような画像・図を使用すること。

●第3回推進委員会 2月7日(月).....

(報告書の確認)

- ・事前キャンプと本キャンプが別の日程で行われたことが分かるように構成すること。
(令和4年度長期自然体験活動の方向性)
- ・これまでの長期自然体験活動の成果や課題を生かし、趣旨及び構成を考えていくこと。
- ・3年計画の1年目の成果や課題に着目し、2年目以降の方策を考えていくこと。
- ・子供たちが主体性をもって取り組むことができるプログラムを考えていくこと。